

サステナブル社会の実現を目指して当社グループが推し進める事業と取り組みを、ステークホルダーの皆様にお伝えします。

編集方針

「竹中コーポレートレポート2024」は、竹中グループのグループCSRビジョンを示すとともに、グループ事業全体の取り組みをわかりやすくお伝えするものです。

竹中工務店の活動内容を中心に構成し、誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データについては竹中工務店WEBに掲載しています。

2014年より会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し、中期経営計画や財務・非財務の主要データを盛り込み、グループ・グローバルな展開を行う当社グループの事業活動全体をステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に公開しています。

誌面に掲載された🔗をクリックすると、WEBの関連情報をご覧いただけます。

報告対象

■ 報告対象期間

2023年1月～2023年12月

当該年以外の活動も一部掲載しています。

■ 報告対象範囲

竹中工務店の活動を中心にグループ会社の活動を含んだ内容としています。

■ 参考ガイドライン

GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」及び日本規格協会発行の「日本語訳ISO26000社会的責任に関する手引」(第一版2010年11月1日)を参考にしました。

■ 発行

日本語2024年3月(次回発行予定2025年3月)

英語2024年5月(次回発行予定2025年5月)

■ お問い合わせ先

経営企画室 広報部 03-6810-5140

CONTENTS

竹中工務店について

- 2 グループ概要
- 3 竹中の歩み
- 6 企業理念
- 7 名誉会長・会長メッセージ

成長戦略

- 8 社長メッセージ

重要課題(マテリアリティ)

- 14 竹中グループの重要課題(マテリアリティ)
- 16 持続可能な建築・まちづくり
- 18 環境との調和
- 23 働き方・生産性改革
- 28 着実な生産プロセス
- 30 人権の尊重

事業活動

- 31 建築
- 35 海外
- 37 開発
- 39 エンジニアリング
- 41 技術開発
- 43 グループ会社

会社情報

- 45 コーポレート・ガバナンス
- 46 コンプライアンス/リスクマネジメント
- 47 社会貢献
- 49 社外評価
- 51 会社概要
- 52 財務・非財務ハイライト

企業WEB

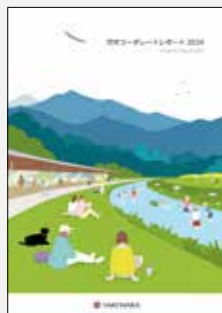
(日本語版/英語版)

🔗 <https://www.takenaka.co.jp>



- ・ 建築作品
- ・ ソリューション
- ・ 会社情報
- ・ サステナビリティ など

企業パンフレット(日本語版/英語版)



コーポレートレポート
(日本語版/英語版)



建築作品集
(和・英併記)



Financial Report
(英語版)

当社の財務情報、非財務情報を統合しコンパクトにまとめました。
事業活動や成果(作品)などもより詳しく紹介しています。

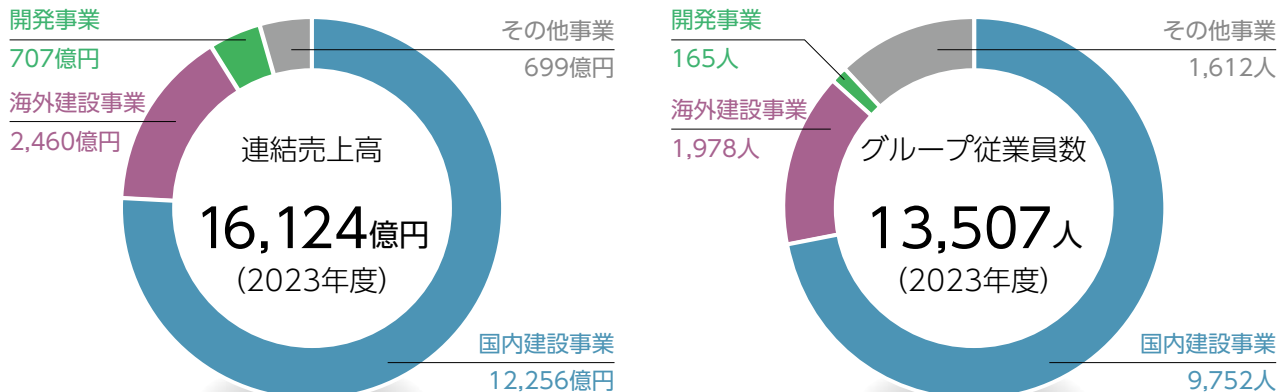
※技術・ソリューションの個別パンフレットもあります。

財務・非財務の広範囲にわたる詳しい情報をタイムリーにカバーしています。

グループ概要

グループ全体で「まちづくりの全てのステージ」でお客様の期待に応えます。

竹中グループの事業規模



竹中グループ主要各社の主な事業領域



※間接保有を除く主要な連結対象会社を記載しています。

竹中の歩み

創業から400年にわたり、技術を磨き、 社会に様々な価値を届けています。

竹中工務店は1610年(慶長15年)の創業以来、建築を専業とし、ランドマークとなる数多くの建築物を手掛け、建設業界と社会の発展に寄与してきました。宮大工であった初代 竹中藤兵衛正高から代々培ってきた**棟梁精神**は、竹中工務店の経営理念「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」に受け継がれ、技術の竹中、品質の竹中と呼ばれる企業活動の根底に脈々と流れています。そして時代の流れとともに「作品」を通した活動は国内外へ、また建築の枠を超えて、豊かで安心な「まちづくり」へと広がり、持続可能な社会の実現に貢献しています。

社会と竹中工務店の主な出来事

1610

創業

1868

明治維新

1894

日清戦争

1899

竹中藤右衛門が神戸進出
創立第1年とする

1909

合名会社竹中工務店設立

1923

関東大震災

1937

株式会社竹中工務店設立

1941

株式会社竹中土木設立

1945

太平洋戦争終結

1959

竹中建築技術研究所開設

1960

TAKENAKA & ASSOCIATES INC.
米国に設立

1961

「財団法人竹中育英会」設立

1963

国立劇場 設計競技1等入選

1964

開発計画本部を設置
季刊誌approach創刊
東京オリンピック開催

1969

株式会社アサヒファシリティズ設立

1610~

建築専業の宮大工としての創業

初代 竹中藤兵衛正高が名古屋で工匠の道を歩み始めました。板図(設計)、普請(施工)、修繕まで品質に一元的に責任を担う棟梁として、神社仏閣の造営に努め、明治以降は、洋風建築も手掛けていきます。



1782 大圓寺薬医門



1818 三縁寺本堂



1897 三井名古屋製糸所

この時代に手掛けた主な作品

1836 寂光院薬医門

正福寺本堂

1841 志摩国分寺本堂

1843 大寶神社

1874 名古屋鎮台兵舎

1884 三井銀行名古屋出張所

1890 東福寺方丈

1893 遊行寺本堂

1899~

創立、組織基盤の整備と建築技術の研鑽

14代藤右衛門が神戸へ進出。設計と施工を表す「工務」、お客様への奉仕を意味する「店」を合わせ、「工務店」と名付けました。西洋技術の吸収と熟練工の養成により近代建築を手掛け、当時の最新技術を用いた作品を遺しています。



1900 三井銀行小野浜倉庫



1934 明治生命館

この時代に手掛けた主な作品

1912 高島屋烏丸(京都)店

西本願寺伝道院

1916 大阪朝日新聞社

1923 堂島ビルディング

1952 日活国際会館

1957 南極観測用施設

1964 日本武道館

1966 国立劇場



1958 東京タワー

社会と竹中工務店の主な出来事

1970

大阪万博開催

1971

「設計に緑を」活動開始

1973

ヨーロッパ竹中設立

第一次石油ショック

1974

東南アジア諸国に事務所設立

1979

非製造業として初の
デミング賞受賞

1984

神戸中山手に竹中大工道具館開設

1986

第二国立劇場の国際設計競技に
おいて最優秀作品に入選

1988

竹中錬一会長がデミング本賞受賞

1992

デミング賞大賞受賞
「竹中工務店地球環境憲章」制定
地球サミット開催

1993

竹中技術研究所移転

1994

環境報告書「竹中eレポート」発行

1995

阪神・淡路大震災発生
国連気候変動枠組条約第1回締約国会議
(COP 1)開催

1996

ISO9001認証取得

1997

国連気候変動枠組条約第3回締約国会議
(COP3)京都議定書採択
ISO14001取得

2004

「企業倫理綱領」制定

2005

東京本店社屋が
CASBEE最高ランク認定取得
「ギャラリーエークウッド」オープン

2007

「燃エンウッド®」が耐火集材材として
国土交通大臣認定を取得

2009

全社方針(安全衛生、品質、環境)制定

1970～

社会構造の変化と海外進出の本格化

戦後の高度成長期に大きな転換期を迎えました。環境建築・ドームなど次の時代を切り開くプロジェクトに積極的に取り組んでいくこととなります。また、ヨーロッパやアジアに拠点を設け、国際空港を手掛けるなど、海外進出を本格化させました。品質経営を掲げ、業界に先駆けてTQMを導入した品質管理活動を推し進めました。



1987 有楽町マリオン

1987
ホテル日航
サンフランシスコ1988
東京ドーム

この時期に手掛けた主な作品

1972 大同生命江坂ビル

1978 日独センター

1981 チャンギ空港 第1ターミナルビル

1991 グランドハイアットカウアイリゾート&スパ

1993 福岡PayPay ドーム

1995～

社会ニーズの高度複雑化と多様なプロジェクトへの対応

阪神・淡路大震災を契機に、安全・安心、環境技術、保存再生への社会的ニーズが高まりました。建築市場や技術が成熟期を迎え、プロジェクトに高度な機能や社会的な価値が求められるとともに技術の洗練化が進んでいきます。



1995 アクロス福岡

1996 東京オペラシティ
1997 新国立劇場

2007 東京ミッドタウン

2009 丸の内パークビルディング・
三菱一号館

この時期に手掛けた主な作品

2001 札幌ドーム「Hiroba」

2002 横浜赤レンガ倉庫保存再生

2005 明治生命館保存再生

2007 ミッドランドスクエア

新丸の内ビルディング

社会と竹中工務店の主な出来事

2010

環境メッセージ

「人と自然をつなぐ」制定

生物多様性条約第10回締約国会議
(COP10)愛知で開催

2011

東日本大震災発生

2012

企業行動規範制定

生物多様性活動指針制定

2014

竹中グループCSRビジョン・

グループメッセージ制定

竹中大工道具館移転

2015

国連気候変動枠組条約第21回締約国
会議(COP21)「パリ協定」を採択

2016

木造・木質建築推進本部設置

2017

万博推進室 まちづくり戦略室設置

聴竹居が国の重要文化財に指定

2019

CO₂削減長期目標を設定

2020

日本政府 2050年カーボン

ニュートラル宣言

2021

東京オリンピック・パラリンピック開催

CO₂削減長期目標を改定

2022

生物多様性条約第15回締約国会議
(COP15)「昆明・モントリオール生物多様性枠組」
を採択

2023

グループCO₂削減長期目標を設定

2025

大阪・関西万博開催

2030

国の温室効果ガス46%削減
(2013年度比)目標時期

2050

カーボンニュートラル目標時期

2010～

脱炭素社会、サステナブルなまちの実現へ

2015年パリ協定採択によって温室効果ガス削減が先進国、途上国を問わず国際社会共通の課題となりました。脱炭素、生物多様性、資源循環などの重要課題に対し、これまでに蓄積した技術と設計力を活かした解決を図り、サステナブルなまちの実現を目指します。



2014 あべのハルカス



2017 チャンギ空港 第4ターミナルビル



2020 FLATS WOODS 木場



2022 大阪梅田ツインタワーズ・サウス

この時期に手掛けた主な作品

2013 大阪木材仲買会館

2014 シンガポール国立美術館保存再生

2017 グローバルゲート

パシフィックセンチュリー プレイス ジャカルタ

2018 旧山口萬吉邸 kudan house

2019 山荘 京大和・パーク ハイアット 京都

有明アリーナ

渋谷 パルコ・ヒューリックビル

国立循環器病研究センター

2020 横浜市役所

パシフィコ横浜ノース

MIYASHITA PARK

2022 東京ミッドタウン八重洲

2023 ハレミライ千日前

茨木市民会館

～2030、2050

中長期の視点で環境問題、生産性向上への対応が求められる中、当社は建築やまちづくりを通じてAIやロボットの活用、再生可能エネルギーの導入、**サークキュラーデザインビルド®**などに主体的に取り組んでいきます。

また2030年やその先の2050年への目標であるライフサイクルCO₂削減及び生物多様性などに関する課題に対し、お客様、行政庁、協力会社などのステークホルダーの方々と協力して取り組むとともに、積極的に情報を開示していきます。

企業理念

想いをかたちに 未来へつなぐ

当社は「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」ことを使命としてきました。そのために、社是を基本姿勢とし、手掛ける建築物の一つひとつを丹精込めてつくってきました。そして、お客様満足や社会の信用を得て企業の社会的価値を高める「品質経営」を継続しています。

更に、私たちを取り巻くステークホルダーが多様化する中で、建築に求められる機能や価値も変化してきており、これまで以上に社会と価値観を共有する企業活動が求められています。また、社会全体を見ても、「地球温暖化・気候変動」「安全・安心の確保」「社会インフラの老朽化」「少子高齢化」など多くの課題を抱えています。これらの

課題は未来の社会に大きな影響を及ぼす可能性があり、企業が果たす社会的責任は一層重要性を増しています。こうした中で、当社はグループの力を結集し、社会そしてステークホルダーとの対話を深め、社会の課題を解決してサステナブル社会を実現することを示した「竹中グループCSRビジョン」と、当ビジョンを含む企業理念、品質経営基本方針の考え方を表現した「竹中グループメッセージ」を定めています。当社の原点である企業理念を一人ひとりが胸に刻み「品質経営」を推進するとともに、企業行動規範を実践することで、このビジョンを実現していきます。

企業理念	経営理念	最良の作品を世に遺し、社会に貢献する
	社 是	正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし 勤勉業に従い職責を全うすべし 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし 上下和親し共存共栄を期すべし
品質経営	品質経営基本方針	品質重視の経営に徹し 新しい環境創造への挑戦により お客様満足と社会の信用を得る
ビジョン	竹中グループCSRビジョン	私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます。
方 針	安全衛生方針	
	品質方針	
	環境方針	
	人権方針	
	調達方針	
	税務方針	
	内部統制基本方針	
	個人情報保護方針	
	マルチステークホルダー方針	
行動指針	企業行動規範	1. お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現 2. 法令及び社会規範の遵守 3. 情報の開示及び保護 4. 人権の尊重 5. 働きやすい職場環境の実現 6. 地球環境への貢献 7. 社会への貢献 8. 危機管理の徹底 9. 国際規範の尊重と各国・地域への貢献 10. 実施体制の整備と違反への対応
メッセージ	竹中グループメッセージ	想いをかたちに 未来へつなぐ

竹中グループCSRビジョン、竹中グループメッセージに込めた想い

私たちは、サステナブルな社会の実現に向け、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」などのステークホルダーの期待に応えるとともに、その人々が集い、作用し合う「まち」が、今も未来も豊かで、安全で、優しいものでなければならないと考えています。そのために、ステーク

ホルダーとの対話をより一層深めていきます。そして、その「想い」を建築、土木、不動産・開発、ファシリティマネジメント、リニューアルといった当社グループの事業力を組み合わせた新たな価値をもつ「まちづくり」を通してかたちにし、サステナブル社会を実現していきます。

名誉会長・会長メッセージ

当社は1899年の創立以来、棟梁精神と品質経営を貫いてまいりました。その結果、広くお客様からの信頼をいただいております。感謝申し上げます。

これまでの125年にわたる営みの中では幾多の環境変化が訪れ、その影響の範囲は広がり、スピードは加速しています。しかしながら、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念、「正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし」を第一とする社是が当社の原点であり、変わらずに守っていくべき創始者の想いです。

これからも、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様との対話をもとに、まちづくりを通じて社会に貢献するというグループのビジョンに則り、真摯に課題に取り組むことが必要だと考えています。サステナブル社会の実現に向けて、社会とお客様の期待にお応えできるよう、弛まず歩み続けてまいります。

2024年3月

取締役名誉会長

竹中 統一

取締役会長

難波 正人